令和元年＊月＊＊日

＊＊＊

業績ご担当様

※原稿内容確認の依頼文書例。
次ページで業績集の構成について説明しています。

「福島県立医科大学業績集 平成 30 年」の原稿について

この度は業績集の作成につきまして御協力いただき、ありがとうございます。

研究者データベース等をもとに、別紙の通り、平成 30 年版（2018 年 1～12 月）の原稿を作成しました。つきましては、下記の通り内容の確認をお願いいたします。

確認が済みましたら、「原稿」と別紙の「返信票」を送付の封筒で学術情報センターまでご返却ください。 【同封原稿 ☑本文 □受賞 ☑助成 □知財】

＊＊／＊＊（＊）までにご確認をお願いします

記

・内容に間違いがないかご確認ください。（編集作業用 Word、Excel ファイルをご希望の場合は、メールにてご連絡下さい）
・修正等は、赤で原稿に書き込んでください。
・平成 30 年時点で所属が無い方の業績が混在していないかをご確認ください。
・研究者データベース上で「非公開」設定のデータも原稿に含まれています。業績集に掲載しない場合は、赤で削除をご指示ください。
・**掲載順は裏面をご参照ください。**

～追加したい業績がある場合～

・入力用の Excel ファイル https://www-lib.fmu.ac.jp/lib/gyosekishu/formH30.xlsx を用意しましたので、メール添付でお送りください（下記ガイドページにもリンクあり）。
※入力締切の翌日にデータ抽出済。その後の研究者データベース入力は把握できません。
・業績の追加は、原稿の内容確認期間中にお願いします。**期間終了後の追加はご遠慮ください。**
（例年 12 月末ごろ内容確認を終了。翌年掲載することもできます）

↓

＊過去(2 年程度)の業績集掲載から漏れた業績を追加していただいても結構です。

附属学術情報センター 業績集担当：唐橋敦子
内線 2855 (karahasi@fmu.ac.jp)
担当代表アドレス：gyosekishu@fmu.ac.jp
ガイドページ：https://www-lib.fmu.ac.jp/gyosekishu/

（参考）

業績集の構成

掲載対象：2018 年 1 月～12 月

＜ご注意ください！＞業績集の編集過程による修正・変更は、研究者データベースと連動しません。研究者データベース上のデータは各自で修正してください。

◆書式の変更(平成 28 年版より)…学内者マーク“*”アスタリスクを廃止。年月日の半角スペース区切りを廃止。英文は NLM スタイルに研究者データベースのデータ仕様を組み合わせて記述。

掲載順序

◇論文

原著
総説等
症例報告
研究報告書
その他

研究者データベースの「学内分類」に従って区分しています。

＊掲載順は、上記①学内分類→②英文→③和文→④掲載誌名→⑤掲載ページ順。

＊原則、プリント版の掲載時点を採用していますが、電子先行公開後１年経過で冊子未刊の場合、電子版を掲載対象とします。（電子出版のみの雑誌は、公開年月を採用しています）

◇著書・訳書

＊掲載順は、①英文→②和文→③掲載図書名→④掲載ページ順。

◇研究発表等

研究発表
シンポジウム
特別講演
招待講演
その他

研究者データベースの「学内分類」に従って区分しています。

＊掲載順は、上記①学内分類→②国際学会**（時系列）**→③国内学会**（時系列）**→④学会名。ただし、同一分類かつ同一学会で複数の業績があった場合は抄録誌掲載順、抄録誌が無い場合は筆頭演者氏名順。変更をご希望の場合はお知らせください。

◇その他の業績・作品等（旧：芸術系の活動・フィールドワーク等）

◇受賞学術賞

◇受託・共同研究・補助等実績（科研費実績はここに入れます）※この種別のみ「年度」を採用。

◇知的財産権

※業績集平成29年版より

凡　　例

1.　本業績集は、平成 29（2017）年に発表された論文、著書、研究発表等を収録した。

2.　収録は、所属別とし、業績の種類により、1）論文　①原著　②総説等　③症例報告　④研究報告書　⑤その他　2）著書・訳書　3）研究発表等　①研究発表　②シンポジウム　③特別講演　④招待講演　⑤その他　4）その他の業績・作品等　の順に記載した。

3.　記載方法

（1）　論文については、著者名、標題、掲載誌名、出版年月、巻（号）、頁の順に記載した。

（2）　著書・訳書については、著者名、書名、出版地、出版者名、出版年の順に記載した。ただし、分担執筆の場合は、担当論題、頁を記入した。

（3）　研究発表等については、発表者名、発表題名、発表会議名、発表年月日、開催地、掲載資料名、巻（号）、頁の順に記載した。